



文部科学省

令和7年度 文部科学省 現職日本語教師研修プログラム普及事業

日本語教育コーディネーター(主任教員) に対する研修報告

実施機関名	一般財団法人 日本語教育振興協会
事業名	日本語教育コーディネーター【主任教員】研修
事業実施期間	令和7年6月～令和8年3月
研修受講者数及び 研修修了者数	研修受講者99名中、研修修了者99名

■ 研修報告の構成

1. 事業概要

- －1. 目的
- －2. 取組の内容
- －3. 実施体制

2. 各研修の概要

- －1. 研修のねらい・特徴
- －2. 求められる資質・能力と研修における教育内容の関係
- －3. 研修の概略
- －4. 研修教育内容・単位時間数
- －5. 研修スケジュール・教育方法・担当講師
- －6. 研修実施にあたっての連携体制
- －7. 募集方法
- －8. 受講者概要
- －9. 修了者と修了率
- －10. 研修の様子
- －11. 研修前後のフォローアップ体制
- －12. 評価方法

3. 受講者数及び修了者数の向上に対する取組

4. 受講者からの評価

- －1. 受講者アンケートの実施とその検証結果について
- －2. アンケート結果①各セッションの学習目標と振り返りに対する到達度の自己評価
- －3. アンケート結果②各セッションの満足度（会場別）
- －4. 各セッションに対する受講者のコメント

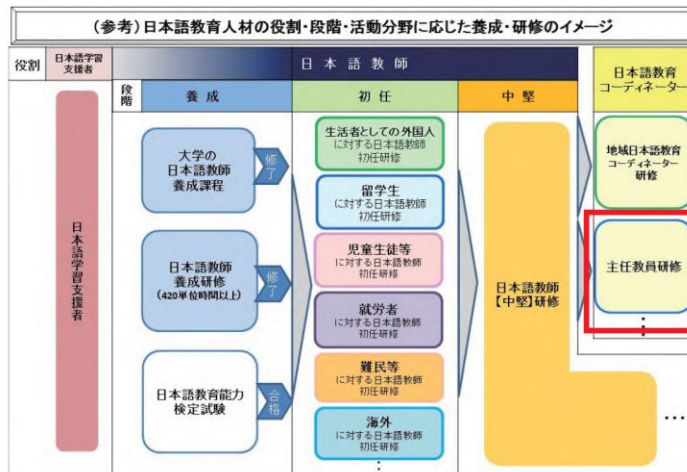
5. 成果と課題

- －1. 本年度の事業の成果・効果
- －2. 本年度の事業の課題と解決に向けて取り組むべき事項
- －3. 実施委員自己評価結果
- －4. 外部評価委員評価まとめ

事業概要

<目的>

- ▶本事業は、日本語教育機関において新たに日本語教育コーディネーター【主任教員】(以下、主任教員)になろうとする者の育成と既に主任教員であり自らの資質・能力のさらなる向上を望む者に対して研修を行うことを主な目的とする。
- ▶本研修のプログラムは、文化審議会国語分科会の「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)」で示された内容を基に2018～2019年度の「日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業」で開発され、以降、改良を重ね日本全国の主任教員を対象に実施されているものである。
- ▶また、各日本語教育機関の質の向上に留まらず、本研修を受講した者が地域の日本語教育の核となって持続可能な教育の仕組みを構築し、その結果諸地域が抱える課題を解決することにより、広く日本語教育の質の向上に寄与することも期待される。



日本語教育機関の教育の質を支える「主任教員」の資質と能力を向上させることを目的として研修を実施



事業概要

<取組の内容>

- ①日本語教育コーディネーター【主任教員】研修
- ②日本語教育コーディネーター【主任教員】研修実施委員会の開催
- ③実施委員候補者研修
- ④日本語教育コーディネーター【主任教員】研修事業評価委員会の開催



【主任教員】研修



研修実施委員会



実施委員
候補者研修

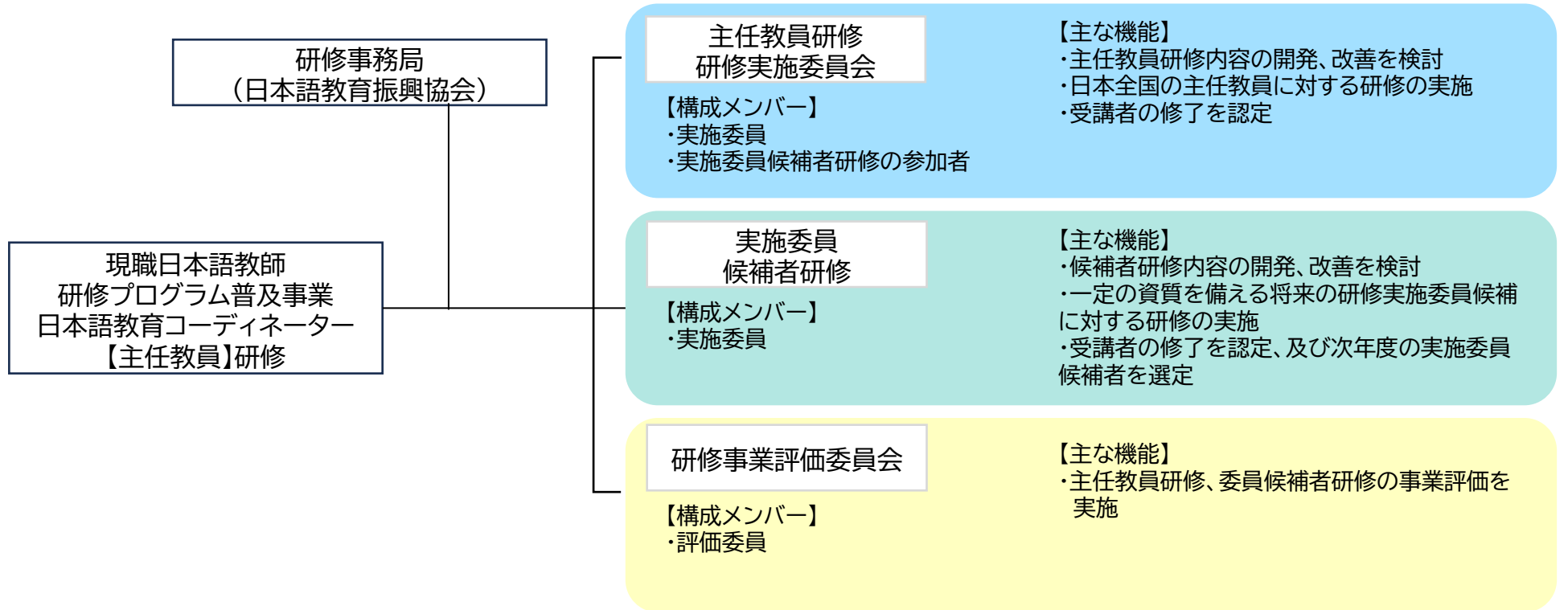


事業概要

<実施体制>

▶「研修実施委員会」、「実施委員候補者研修」、「研修事業評価委員会」を設置し、一般財団法人日本語教育振興協会が研修事務局として統括をする。

▶構成メンバーは、経験豊富な日本語教育機関の校長と主任教員を中心に構成されている。他には、大学教授や教員などの専門家も加え、多角的な視点で研修が実施できる体制を整えている。





事業概要

<実施委員>

平岡 憲人	委員長	清風情報工科学院 校長
青柳 恵	委員	ヒューマンアカデミー日本語学校 東京校 教務主任
一条 初枝	委員	ヨシダ日本語学院 校長
内田 さつき	委員	コミュニカ学院 校長
生方 哲男	委員	カナン東京日本語学校 副校長
亀田 美保	委員	大阪YMCA日本語教育センター センター長
國田 久子	委員	にんじんランゲージスクール 主任教員
栗本 久美	委員	平成医療学園専門学校 日本語学科 学科長(教務主任)
澤井 美智子	委員	大阪みなみ日本語学校 教務主任
神 恵介	委員	新世界語学院 校長
惣万 奈美子	委員	新宿日本語学校 教務主任
高田 薫	委員	ヒューマンアカデミー日本語学校 東京校 主任教員
土屋 理恵	委員	清風情報工科学院 副校長
戸川 朝子	委員	南大阪国際語学学校 校長
野村 智恵	委員	元ヨシダ日本語学院教務主任
三宅 ひとみ	委員	大阪みなみ日本語学校 教務副主任
山田 貴彦	委員	ミッドリーム日本語学校 校長

<事業評価委員>

西郡 仁朗	委員長	東京都立大学名誉教授
一条 初枝	委員	ヨシダ日本語学院 校長
中西 郁太郎	委員	青山スクールオブジャパニーズ 校長
西澤 良之	委員	古賀政男音楽文化振興財団 専務理事
柳澤 好昭	委員	国立国語研究所名誉所員



■ 各研修の概要

<研修のねらい・特徴>

【主任教員研修のねらい】

- ◆ 「日本語教育の参照枠」に基づく学習成果の評価と手法を理解し、実践に生かす力を養う
- ◆ 人材育成の目的や考え方を知り、自校が求める教員像に近づけるための育成方法を考え実践する
- ◆ 今の悩みを共有できる仲間や相談できる先輩とのネットワークを獲得する

【主任教員研修の特徴】

- ▶ 「日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律」の成立により、ますます注目が集まる「日本語教育の参照枠」や「日本語教師の人材育成」について理解を深める事ができる
- ▶ 現場の“今”を意識した研修プログラムにより、過去の研修受講者が再度受講しても満足できる研修である
- ▶ グループワークでは経験別や所属学校の属性別のグループを構成することにより、多様な受講者の満足度を保証する



各研修の概要

求められる資質・能力と研修における教育内容の関係

▶主任教員研修は、平成31年に文化審議会国語分科会から出された「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改訂版」に示された教育内容に準拠し、教育カリキュラムを構築している。

▶想定単位時間数として「30単位時間」が示されているが、**本研修では「36単位時間」**を設定し、教育内容の充実を図っている。

科目名	教育内容	指定単位時間数	主任教員研修における単位時間数
(1)日本語教育施策	①留学施策・入国管理制度・教育行政と、留学生の出身国等の最新の動向 ②法務省告示日本語教育機関の現状と課題・業界全体の動向	2~4	3
(2)日本語教育機関の運営	③教育機関の運営に関する基礎知識 ・組織マネジメント (コーディネーター論・リーダーシップ論) ・ラーニングマネジメント ・教育機関の経営 ・危機管理 ・法令の遵守(労働基準法、著作権法等) ・学習者の多様性への理解	2~4	3
(3)プログラムデザインと評価	⑤日本語教育のプログラムデザイン ・教育機関の目的・目標に応じたプログラムの策定・実施・点検・評価・改善 ・社会参加を促進する教室活動 ・カリキュラム編成、クラス編成、教員の配置 ・プログラム評価、学習者評価、授業評価 ・教育機関の自己点検評価	4~8	5
(4)人材育成とキャリア支援	⑥キャリア支援 ・留学生アドバイザー ・人材育成のための研修プログラムの策定 ・セルフマネジメント ・教員の協働を促進するファシリテーション	2~6	8
(5)地域・社会に求められる日本語学校の役割	④地域社会と日本語学校 ・ネットワーキング	2~6	3 1/3
(6)事例研究	⑦事例研究 ・問題解決能力 ・現状把握から課題設定、課題解決に向けた方略の検討	8~12	13 2/3
30単位時間			36単位時間

各研修の概要

求められる資質・能力と研修における教育内容の関係

	知識	技能	態度
日本語教育コーディネーター【主任教員】	(1) 留学生施策や入国管理制度をはじめとする留学生受入れの最新の動向を把握している。 セッション1・5	(1) 教育機関の目標に沿った日本語教育プログラムを円滑に運営・管理する能力を持っている。 セッション6・7	(1) 日本語教育の専門家として、自らの職業の社会的意義についての自覚と情熱を有し、自身の指導や日本語教育プログラムについて客観的に振り返るとともに、自らの立場と役割を認識し、必要とされる知識・能力を獲得しようとするなど、常に学び続けようとする。 セッション6・7
	(2) 日本語教育機関の設置・運営に関する基本的な知識を持っている。 セッション4・7・8・9・10	(2) 組織マネジメント能力を持ち、緊急時における危機管理能力を含め、状況に応じたリーダーシップを発揮できる。 セッション5・6	(2) 日本語教師（初任・中堅）に必要な研修を把握し、その受講機会を積極的に提供するとともに、教師のキャリアを含む中長期的な人材育成に努めようとする。 セッション4
	(3) 教育機関の目標に沿った日本語教育プログラムの策定・実施・点検・改善を行うための知識を持っている。 セッション4・7・8・9・10	(3) 組織や日本語教育プログラムの現状を分析し、課題を把握し、改善計画を策定し実施できる。 セッション3・4・5・6・7・8・9・10	(3) 組織内の中間管理職としての立場と役割を認識し、前向きに取り組もうとする。 セッション5・6
	(4) 人材育成・組織マネジメント・危機管理に関する基本的な知識を持っている。 セッション4・5・6	(4) 外国人施策、教育行政や他の教育機関の動向等に関する情報を収集し、現場に生かす力を持っている。 セッション1・5	(4) 地域を含めた他の関係機関・団体との交流等を通じて、多様な教育機会を提供しようとする。 セッション6
	(5) 所属する日本語教育機関・団体以外の日本語教育関係機関・団体の状況など、日本語教育業界の大まかな動向を把握している。 セッション1・2	(5) 業務を円滑に行うための事務処理能力、関係する諸機関や関係者との調整・交渉能力、ネットワークを構築する力を持っている。 セッション1・5・6	
	(6) 地方公共団体をはじめ地域の関係機関・団体等と連携・協力関係を構築するために必要となるネットワークや調整・交渉に関する知識を持っている。 セッション6	(6) 多様な機関と連携・協力し日本語学習者の学びや日本語教育を通じた社会参加を促進するための活動をデザインすることができる。 セッション6・7	
	(7) 多様な機関と連携・協力し日本語学習者の学びや日本語教育を通じた社会参加を促進するための活動のデザインを行うための知識を持っている。 セッション6・7	(7) 日本語教育プログラムに関わる日本語教師（初任）等に対する研修を企画できる。 セッション4	

▶主任教員研修は、全部で10のセッションで構成されている。各セッションの教育内容は、平成31年に文化審議会国語分科会から出された「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改訂版」で示された主任教員に求められる資質・能力の項目を網羅している。

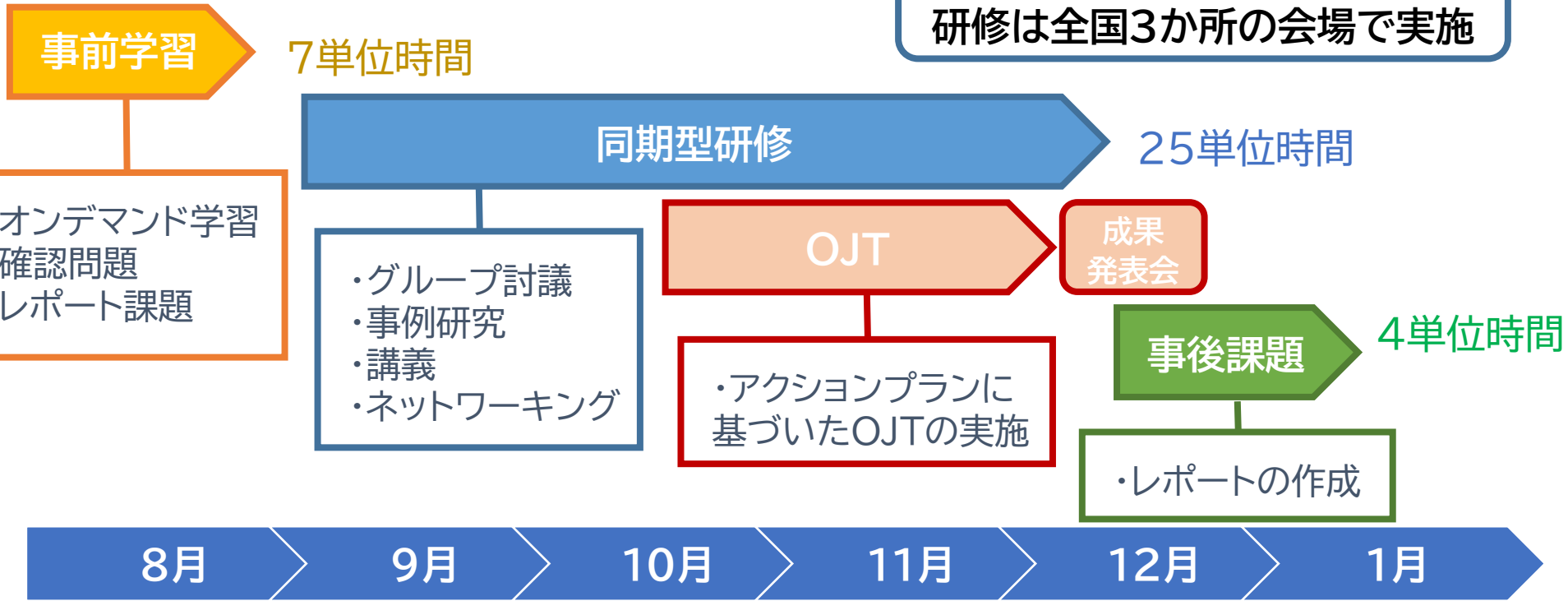
「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改訂版」を基に研修実施委員会が作成



各研修の概要

研修の概略

同期型研修のうち、対面で行う研修は全国3か所の会場で実施



主な使用ツール

LMS(事前学習等): Google classroom
 研修時: Zoom, Google Spreadsheet, Google form, Padlet

各研修の概要

研修教育内容・単位時間数①

※1単位時間は45分

項目	教育内容	単位時間数
事前学習	各セッションのオンデマンド映像講義の視聴 確認問題の回答、レポート課題	7
セッション1 最新の日本語教育施策を知ろう！	出入国在留管理庁、文部科学省、日本語教育振興協会の講演を聞き、日本語教育 施策の現状を知る	2
セッション2 認定取得のための第三者評価の活用	認定審査制度、日振協第三者評価、日本語教育機関の質保証のあり方を理解する	1
セッション3 学校の課題、私の課題	自校と自身が抱えている課題を明確にする	1+ 1/3
セッション4 認定校の主任教員に求められる研修デザインの能力	人材育成のための枠組み・方策と実施の際に必要なスキルについて理解する	4
セッション5 日本語教育機関の組織マネジメント	中間管理職としての職責を果たすために、経営者との交渉の手法を学ぶ	2
セッション6 Can doで具体化！主任教員に求められる 知識・技能・態度	主任教員に求められる知識・技能・態度を理解し、自身の課題を明確にする	2



■ 各研修の概要

研修教育内容・単位時間数②

※1単位時間は45分

項目	教育内容	単位時間数
セッション7 認定校の教育課程における学習評価の手法と押さえるべきポイント	日本語教育の参照枠における評価方法を理解し、評価基準策定の手法を学ぶ	4
セッション8 より良い学校づくりのための私のアクションプラン	アクションプランで何をするかの概要を決める	2
セッション9 アクションプランの実践経過報告会	アクションプランの途中経過の発表を通して、実践状況を客観的に分析する	3
セッション10 アクションプランの成果発表会	2か月間の経過、成果、反省点、今後の課題などについて発表し、自己の活動を客観的に振り返る	3+ 2/3
OJT	現状把握から課題設定、課題解決に向けた方略の検討 教員の協働を支援するファシリテーション	—
研修レポート提出	研修全体やアクションプランの取り組みについての振り返り、今後目指す主任像についてレポートを作成	4

各研修の概要

研修スケジュール、教育方法、担当委員・講師①

日程		項目	教育方法	各セッション企画・運営担当委員
8/1～ 8/25	事前	事前学習	オンライン 自主学习	各セッション担当委員
8/29	研修①	セッション1 最新の日本語教育施策を知ろう！	講義形式	出入国在留管理庁 担当官 加藤早苗(日本語教育振興協会理事長)
<東京> 9/5 <大阪> 9/14 <福岡> 9/22	研修②	セッション2 認定取得のための第三者評価の活用	グループ ワーク	加藤早苗(日本語教育振興協会理事長)
		セッション3 学校の課題、私の課題	グループ ワーク	澤井美智子
		セッション4 認定校の主任教員に求められる研修デザインの能力	グループ ワーク	一条初枝 戸川朝子
		セッション5 日本語教育機関の組織マネジメント	グループ ワーク	高田薫 生方哲男

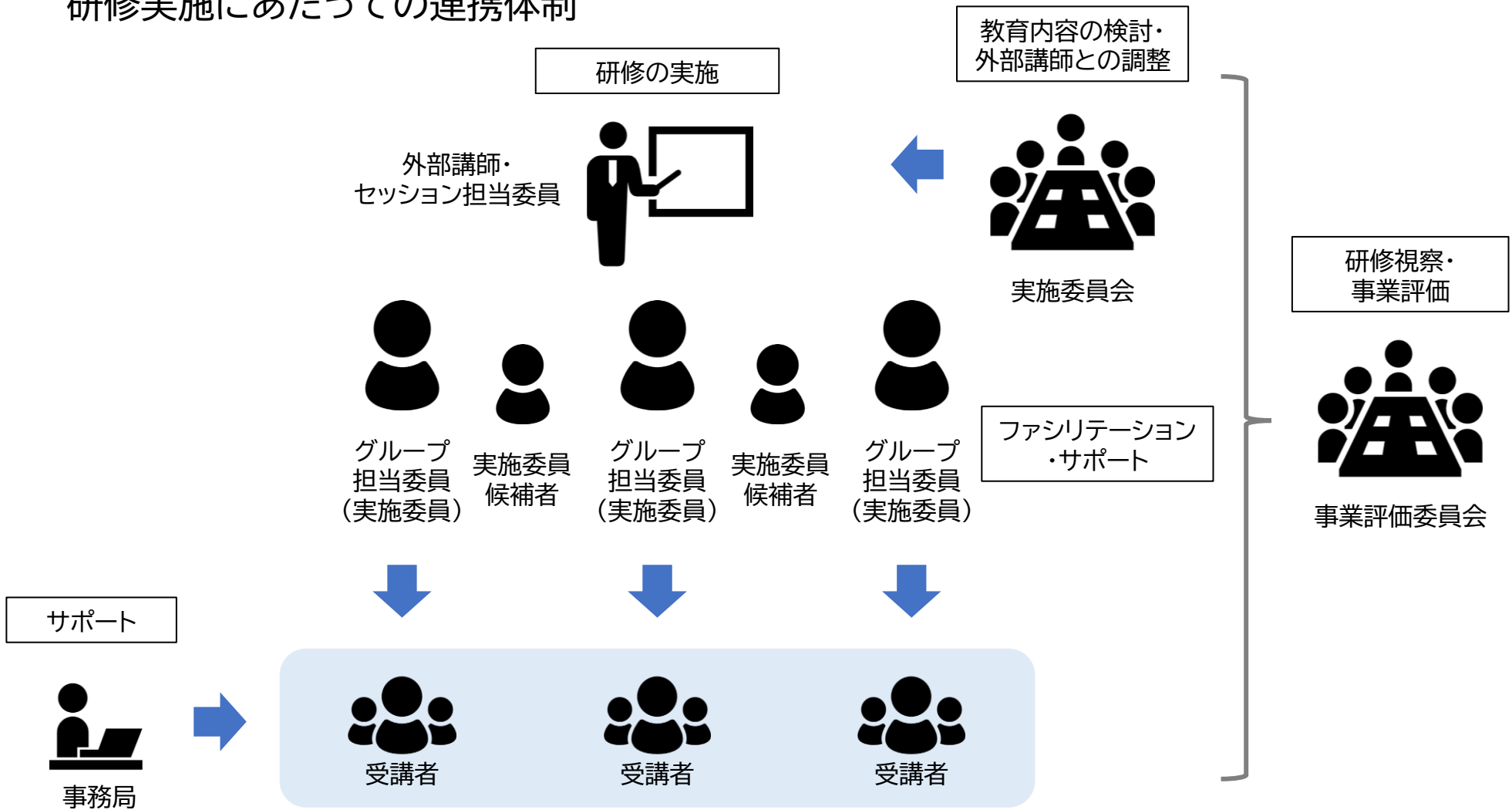
各研修の概要

研修スケジュール、教育方法、担当委員・講師②

日程	項目	教育方法	各セッション企画・運営担当委員
<東京> 9/6 <大阪> 9/15 <福岡> 9/23	セッション6 Can doで具体化！主任教員に求められる 知識・技能・態度	グループ ワーク	國田久子 野村智恵
	セッション7 認定校の教育課程における学習評価の手法と 押さえるべきポイント	グループ ワーク	内田さつき 亀田美保
	セッション8 より良い学校づくりのための私のアクションプラン	グループ ワーク	栗本久美 土屋理恵
10/25	セッション9 アクションプランの実践経過報告会	グループ ワーク	栗本久美 土屋理恵
12/6	セッション10 アクションプランの成果発表会	グループ ワーク	栗本久美 土屋理恵
10月～ 12月	OJT		
1/8	研修レポート提出		
2/2	修了認定		

■ 各研修の概要

研修実施にあたっての連携体制





■ 各研修の概要

募集方法

- ▶ **募集期間:** 令和7年7月7日～令和7年7月28日
- ▶ **募集方法:** 日本語教育振興協会ホームページへの開催案内掲載
各ウェブサイトへの告知掲載(日本語教育学会、凡人社等)
過去研修受講者へのメール送付、等
- ▶ **募集定員:** 108名

参加資格

以下の(1)～(3)のいずれかの条件を満たす方

- (1) 告示校の主任教員
- (2) 告示校で3年以上の常勤教員経験を有する主任教員予定者
- (3) 認定申請済機関の主任教員

※応募者が定員を超過し、選抜の必要が生じた場合には、現職の主任教員を優先します

参加要件

- ・研修の全日程に参加できる方 ※参加決定後の会場変更は不可
- ・オンライン集合研修において、静かで研修に集中できる環境から参加できる方
- ・インターネット環境が整っており、PCで研修に参加できる方
※スマホやタブレットからの参加は不可
- ・自校にて実際に課題改善を行い、その取り組みを発表し、研修レポートとして提出できる方

トピックス&お知らせ詳細

令和7年度文部科学省委託主任教員研修の開催について (ご案内)

令和7年7月7日掲載

標記研修を開催いたします。

昨年度に引き続き、より質の高い研修成果を求めて、研修の核となる2日間の集合研修を東京会場、大阪会場、福岡会場ですべて対面にて実施することいたしました。特に、東京会場は国立オリンピック記念青少年総合センターに宿泊して研修を行うので、研修に参加した仲間や講師との絆がより一層深まることを期待しております。もちろん、どちらの会場での研修も日本全国からご参加いただけます。

加えて、オンデマンドによる事前学習を多く取り入れるなど、集合研修での成果をより高めるための工夫がされております。さらに、各参加者が自校の教育の質向上のための取り組みを発表する機会を作り、より質の高いフィードバックが得られるように集合研修後のフォローアップも強化するなど、より密度の高い研修プログラムとなっております。

受講希望者におかれましては、7月28日(月)までに、所定の応募方法にて、ご応募くださるようお願いいたします。

また、当協会の主任教員研修は告示校を対象としているため、たとえ常勤3年以上の経歴を有していても認定校・告示校の教員(認定日本語教育機関の審査申請済みの教育機関(新規開校含む)に所属する主任教員を含む)でない限り研修の対象とはなりません。

各研修の概要

受講者概要①

受講者数(研修開始時):99名

東京会場:52名

大阪会場:34名

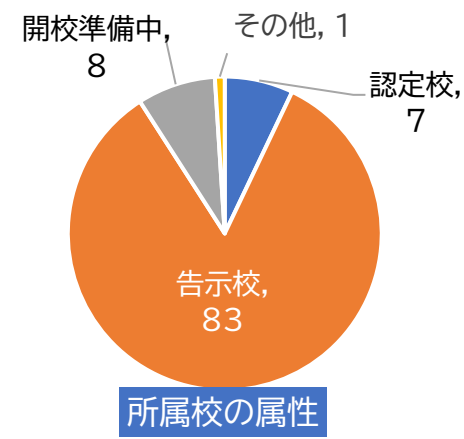
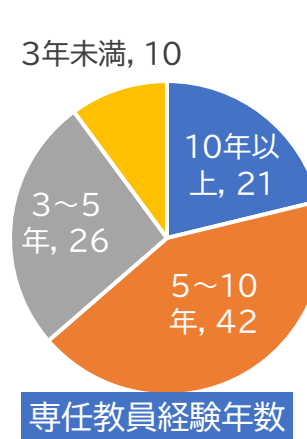
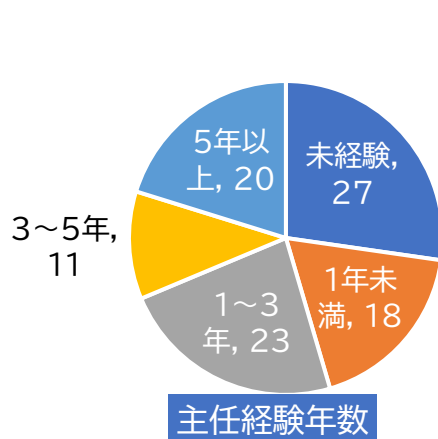
福岡会場:13名

▶ 受講者の半数以上が主任教員経験1年以上で、このうち5年以上の主任経験を持つものが20%以上いた。

▶ 受講者は認定校、告示校からの参加の他、開校準備中(認定日本語教育機関申請中)からの参加者が8名となった。

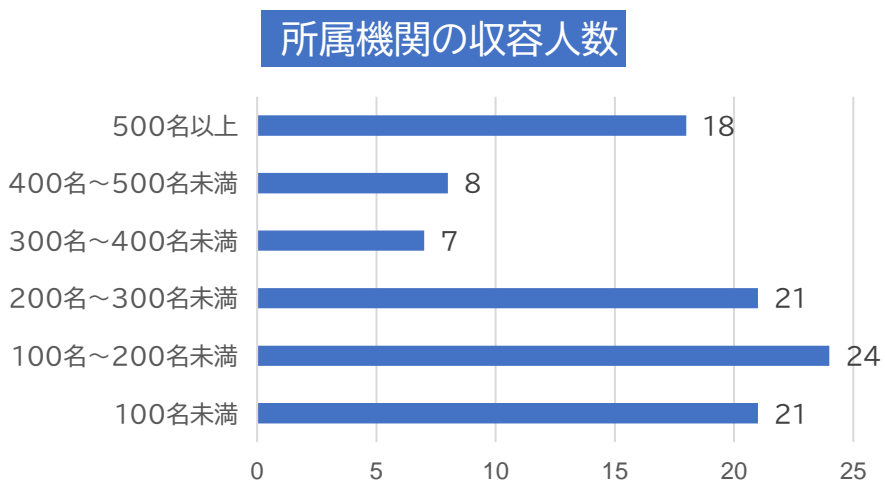
所属機関の所在地

地域	人数
北海道・東北	2名
関東・甲信越	11名
東京	30名
東海・北陸	17名
近畿	21名
中国・四国	9名
九州・沖縄	9名
合計	99名



各研修の概要

受講者概要②



▶ グループの作成にあたっては、主任経験歴の他、受講者の所属機関の設置形態、学校規模にも配慮してグループ分けを行った。

▶ 申込時のアンケートからは、所属機関においてのコース・カリキュラムの開発、運用および人材育成に関して課題を感じている受講者が多いことが窺えるが、今年度は日本語教育業界やその動向に対する知識や理解を選ぶものも増えた。

申込時のアンケートより(複数選択)

感じている不安や課題	
b.コースやカリキュラムの開発、運用	75
e.教職員の人材育成	61
m.日本語教育業界やその動向に対する知識や理解	30
c.ICTへの対応	29
i.組織マネジメント	27
f.人材不足	18
n.地域社会との関わり	11
g.労働環境の整備	10
d.進路指導(進学・就職など)	9
a.自身の授業力	8
h.待遇改善	6
k.学生募集など教務以外の業務	5
j.経営者や経営母体との関係性	3
l.危機管理対応	3



■ 各研修の概要

修了者と修了率

修了者

99/99名

修了率

100%

【修了要件】

以下の要件(1)(2)(3)全てを満たすこと

- (1) 成果発表会(セッション10)で最終的な研修成果を定められた規定に従い発表し、SABC評価の内、B以上の評価を得ること
- (2) 成果発表会後に研修レポートを定められた規定に従い提出し、SABC評価の内、B以上の評価を得ること
- (3) 全36単位時間中、30単位時間以上(1単位時間は45分)を取得すること

※1 研修①～③を終えた後、研修受講生が各所属機関でOJT(アクションプラン)を実施し、その成果を発表するもの

※2 研修①～⑤を終えた後、「主任研修での学び」「自分の強化すべき点」「アクションプランの成果と今後の課題」についてまとめたもの

■ 各研修の概要

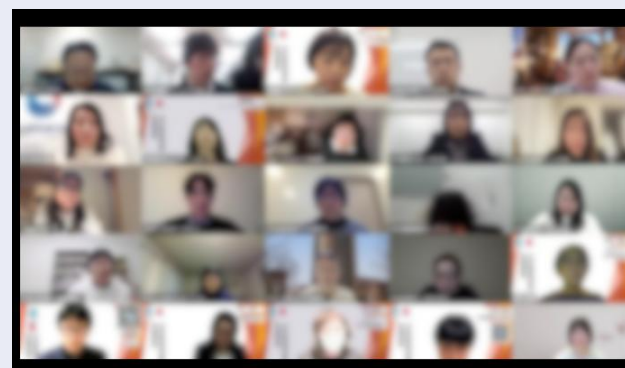
研修の様子

集合研修

【大阪会場】



【オンライン(全会場合同)】



【東京会場】



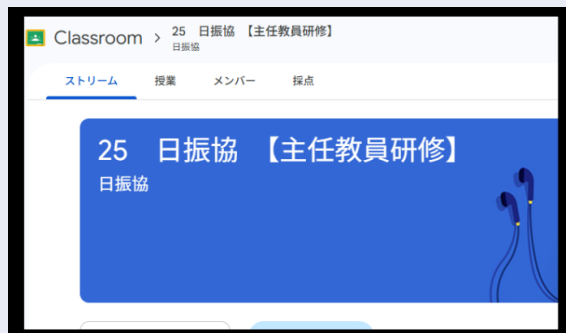
【福岡会場】



各研修の概要

研修の様子

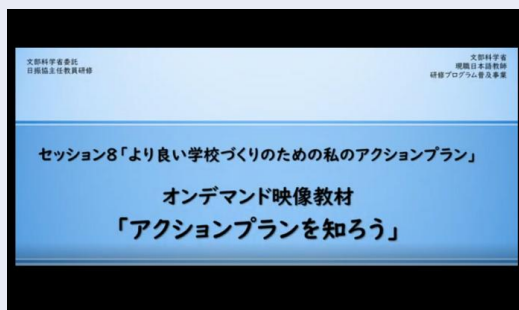
使用
ツール



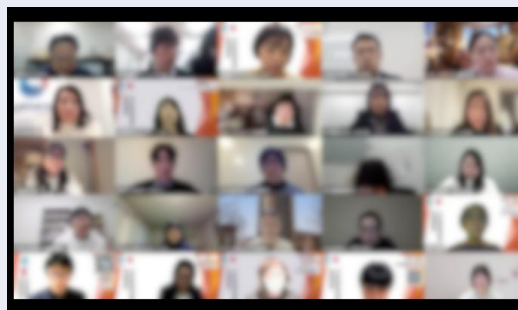
Google Classroom



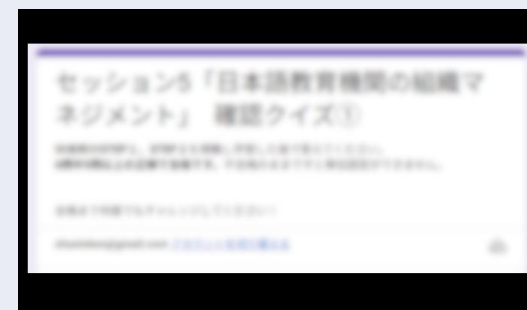
Padlet



オンデマンド教材



Zoom



Googleフォーム



■ 各研修の概要

研修前後のフォローアップ体制

本研修では、受講者が研修をスムーズに受講するためのフォローアップ体制を整えている。
また、対面研修での交流会など研修中から受講生同士のネットワーキングを構築しており、研修後も継続した協力関係が築けるように支援を行なっている。



■ 研修開始前

- ・LMS(Google Classroom)の使い方マニュアル配布



■ 研修中

- ・Google Classroom上での案内の一元化
- ・各グループ担当委員による研修中の継続的なフォロー



■ 受講者間のネットワーキング

- ・対面会場での交流時間や名刺交換など
- ・ランチタイム交流会



各研修の概要

評価方法

次の1～3の分野ごとにS～Cの4段階で評価を行う。

- ①成果発表
- ②研修レポート
- ③研修の達成度(自己評価)

今年度の評価結果

評価結果	①成果発表	②研修レポート	③研修の達成度
S	28名	80名	60名
A	56名	17名	38名
B	15名	2名	1名
C	0名	0名	0名

成績フィードバックシート

令和7年度 主任研修 研修フィードバック 別紙

000-00 日本語教育振興協会 日振 協太郎

成果発表評価: A 研修レポート評価: A 研修の達成度評価: A

担当委員からのコメント

この研修では下記の3項目について、それぞれの得意等に基づいたS～Cの4段階で評価しています。
なお、この評価結果は参考です。成績に関することはお伝えできません。

- ① 成果発表における評価
- ② 研修レポートの評価
- ③ 研修の達成度についての評価(自己評価)

最後に、今回の研修の終了要件を改めてご確認ください。

【終了要件】
以下の要件(1)②(3)全てを満たすこと
(1) 成果発表会(セッション10)で最終的な研修成果を定められた規定に従い発表し、SABC評価の内、B以上の評価を得ること
(2) 成果発表会後に研修レポートを定められた規定に従い提出し、SABC評価の内、B以上の評価を得ること
(3) 全36単位時間中、30単位時間以上(1単位時間は45分)を取得すること

(各セッション及び事前学習の単位認定条件)
・事前課題においては、課題の指示に従って学習が完了していること
・集合研修①～③においては、各セッション等に90分以上出席していること
・当該研修がなかった研修受講や、他の業務と並行しての研修受講で、カメラがオフの状態での参加は単位として認めない。

令和7年度 文部科学省委託 日本語教育コーディネーター【主任教員】研修
実施委員会委員長 平岡真人

以上

修了証明書

見本

第 C25-00 号

修了証明書

氏名 日振協太郎
生年月日 1989年5月1日

あなたは、当協会主催「令和7年度文部科学省委託主任教員研修」を受講し、所定の課程を修了したことを証明する

研修受講期間 2025年7月30日～2026年1月8日



 令和8年2月00日
 一般財団法人日本語教育振興協会
 理事長 加藤 早苗

Re: C25-00

CERTIFICATE

Name Nisshinkyo Taro
Date of Birth May. 1, 1989

This is to certify that you have completed the 2025 Training Program of Appointed Head Instructors commissioned by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology and offered by the Association for the Promotion of Japanese Language Education.

Period of training: July 30, 2025 - January 8, 2026 February 00, 2026

Katsuo Hasegawa
President
Association for the Promotion of Japanese Language Education

■ 受講者数及び修了者数の向上に対する取組

受講者数



開校準備中(認定日本語教育機関申請中)の新規校も受講対象としたことにより
受講者数UP

修了率



修了要件単位数を36単位時間に改定したことにより
修了率UP

■ 受講者からの評価

受講者アンケートの実施とその検証結果について①

▶受講者アンケートの実施状況

	実施日	回答状況	回答率
研修①	8月29日	対象者99名中97件の回答	(100%)※欠席者2名
研修②	9月5日	対象者52名中52件の回答	(100%)
	9月14日	対象者34名中34件の回答	(100%)
	9月22日	対象者13名中13件の回答	(100%)
研修③	9月6日	対象者52名中52件の回答	(100%)
	9月15日	対象者34名中34件の回答	(100%)
	9月23日	対象者13名中13件の回答	(100%)
研修④	10月25日	対象者99名中99件の回答	(100%)
研修④	12月6日	対象者99名中99件の回答	(100%)

■ 受講者からの評価

受講者アンケートの実施とその検証結果について②

▶ アンケートの内容

研修①～⑤及び研修内の各セッションについてそれぞれ下記3項目のアンケートを実施。

- ・各研修に対する態度自己評価
- ・各セッションの到達目標に対する自己評価
- ・各セッションに対する満足度

▶ 検証結果と課題の概要

・態度自己評価の結果を見ると、研修への参加姿勢や他者とのコミュニケーションに関する項目については、全体として安定した数値が示されているが、チームの目的や役割分担を明確にしようとする意識、タスク進行中における自己の立ち位置や状況の把握、状況に応じた主体的なリーダーシップの発揮などに関する項目については、相対的に数値が低い傾向が見られた。

・今後は、研修内において自己内省の時間をより意識的に確保することや、活動後の振り返りを段階的に深める構成とするなど、研修設計上の工夫を通じて、受講者が自身の行動や役割を客観的に捉え直す機会を増やし、自己分析・考察を促す取り組みを検討していく必要がある。

研修①の態度自己評価について

まずは、今日一日の研修に対する取り組みを思い出してみましょう。
正直な気持ちで、自己評価してみてください。

1. 私はチームの成果に対して責任を持って取り組んだ。*

	1	2	3	4	
できなかった	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	できた

2. 意見が異なるメンバーとも、冷静かつ建設的に議論できた。*

	1	2	3	4	
できなかった	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	できた

■ 受講者からの評価

アンケート結果①各セッションの学習目標と振り返りに対する到達度の自己評価 各4点満点中

概況		セッション1			セッション2			セッション3			セッション4			セッション5		
		自己評価 ①	自己評価 ②	自己評価 ③	自己評価 ①	自己評価 ②	自己評価 ③	自己評価 ①	自己評価 ②	自己評価 ③	自己評価 ①	自己評価 ②	自己評価 ③	自己評価 ①	自己評価 ②	自己評価 ③
総体	99人	3.35	3.59	3.00	3.59	3.62	3.61	3.79	3.72	3.74	3.31	3.46	3.49	3.35	2.66	3.32
東京	52人	3.35	3.55	3.00	3.69	3.69	3.62	3.85	3.69	3.81	3.23	3.42	3.46	3.35	2.62	3.25
大阪	34人	3.30	3.64	3.00	3.47	3.56	3.56	3.68	3.71	3.56	3.53	3.56	3.53	3.26	2.71	3.41
福岡	13人	3.46	3.62	3.00	3.46	3.46	3.69	3.85	3.85	3.92	3.08	3.38	3.54	3.62	2.69	3.38

		セッション6			セッション7			セッション8			セッション9			セッション10		
		自己評価 ①	自己評価 ②	自己評価 ③	自己評価 ①	自己評価 ②	自己評価 ③	自己評価 ①	自己評価 ②	自己評価 ③	自己評価 ①	自己評価 ②	自己評価 ③	自己評価 ①	自己評価 ②	自己評価 ③
		3.75	3.53	3.53	3.55	3.56	2.93	3.70	3.59	3.17	3.64	3.38	3.62	3.18	3.77	3.76
		3.77	3.50	3.54	3.52	3.52	2.94	3.75	3.60	3.13	3.67	3.33	3.60	3.42	3.79	3.83
		3.76	3.59	3.56	3.62	3.65	2.88	3.68	3.56	3.21	3.68	3.44	3.71	2.97	3.71	3.65
		3.62	3.46	3.38	3.46	3.46	3.00	3.54	3.62	3.23	3.38	3.46	3.46	2.77	3.85	3.77

自己評価 平均	100点 換算
3.47	86.9
3.48	87.1
3.47	86.8
3.45	86.7

※表中の①～③は各セッションにおける各学習目標を表す

・各セッションの学習目標および振り返りに対する到達度の自己評価集計データを見ると、全体として概ね安定した数値が示されており、本研修が受講者の理解促進および課題意識の醸成に一定の成果をもたらしていることが確認できる。

・例年は東京会場において相対的に高い数値が見られる傾向があったが、今年度は会場間の差が縮小し、全体として均衡の取れた結果となっている。この背景には、対面形式の研修を基本としつつ、研修内でのグループ活動に加え、受講者同士が自然な形で対話を重ね、学習内容を共有・深化させることができる機会を意識的に設けたことが影響していると考えられる。

■ 受講者からの評価

アンケート結果②各セッションの満足度(会場別) 各4点満点中

概況		SS1	SS2	SS3	SS4	SS5	SS6	SS7	SS8	SS9	SS10	満足度 平均	100点 換算
		満足度	満足度	満足度	満足度	満足度	満足度	満足度	満足度	満足度	満足度		
総体	99人	3.51	3.77	3.75	3.91	3.78	3.82	3.92	3.81	3.77	3.87	3.79	94.7
東京	52人	3.43	3.77	3.79	3.94	3.77	3.83	3.98	3.83	3.81	3.92	3.81	95.2
大阪	34人	3.64	3.88	3.68	3.85	3.82	3.82	3.91	3.82	3.76	3.82	3.80	95.0
福岡	13人	3.46	3.46	3.77	3.92	3.69	3.77	3.69	3.69	3.62	3.77	3.68	92.1

- ・本研修の核となる人材育成や研修設計を扱ったセッション4、およびコース・カリキュラムに関わるセッション7については、満足度において数値がとても高く出ている。
- ・全体の満足度についても、昨年度と比較すると数値が伸びている。
(参考:2024年実施後アンケートでは、全体91.8点、東京93.6点、大阪89.8点、福岡91.5点)

■ 受講者からの評価

各セッションに対する研修受講者のコメント①

【研修①(セッション1)】

- ・改めて在日外国人についてや在留資格について、日本語教育の現状等を把握し、自分の学校ではどうか等、考える時間にすることができたので良かったです。
- ・自分が日本語教師になったころからどのように日本語教育や社会が変化してきたか目に見えて確認することができました。そして、これから日本語教育や教師が社会で果たす役割があることがおぼろげながら見えてきました。

【研修②(セッション2～5)】

- ・自己評価と第三者評価の必要性が見えた。現状に満足せず、常に改善を意識することが質保証に繋がるのだなと実感した。
- ・課題の共有や解決方法を話し合いできて、取り組みについてのヒントや手法を知った。この研修をきっかけに課題の改善について前向きに取り組んでいきたい。
- ・研修計画を立てるためには「学校の理念・方針」をよく理解する必要があると改めて感じた。また、研修計画を一人でかんがえるのではなく、グループでいろいろな意見を聞きながら作成することで、他者の意見やアプローチの仕方などがわかり、大変有意義な時間であった。
- ・経営者の気持ちになってみて考えを聞いてみたり説明したりすること、その際数字を持ってきて交渉することの必要性、何より一緒に学校を作っている仲間であるという意識の重要性を再確認しました。



■ 受講者からの評価

各セッションに対する研修受講者のコメント②

【研修③(セッション6～8)】

・内省しながら、目標となる到達点まで自分自身で責任を持って実行に移す姿勢を持ち続けることの大切さがわかりました。また、主任自身で抱え込まないようにし教員間での協働することの大切さも理解しました。

・パフォーマンス評価を行う際の留意点や目的を理解できた。そもそも評価と成績についても改めて認識することができた。ルーブリック作成によって、今自校で作成中のルーブリックの再確認、見直しが必要だと感じた。

・2ヶ月という期間で、アクションプランがどこまで実践できるのか、だれがどうやって実践するのか、自分一人では想定できなかった視点に先生方との対話を通して気づくことができました。この気づきを教育現場に持ち帰り、計画、実践、振り返り、改善に取り組みます。

【研修④⑤(セッション9,10)】

・他の先生方の熱意を感じることができ、励みになった。先生方の取り組みは、自分のアクションプランの今後の取り組みの参考にもなると感じた。また、アクションプランについての不安な部分が解消され、次回の発表に向けた改善点もわかった。

・課題の発見→計画→行動→点検・評価→新しい課題の発見という一つひとつの流れを改めて丁寧に取り組む機会をいただくことができ、自身の成長に役立てることができたと感じています。忙しさに負けずに、自分の目標とする先に向かって取り組む姿勢を大切にしたいと思います。



■ 成果と課題

本年度の事業の成果・効果

①修了要件単位数の見直しについて

研修の省力化を見据えて、セッションの見直しを行い、修了要件単位数を45単位時間から36単位時間に改定した。受講者の負担も減り、修了率100%を実現できた。

②研修内容のブラッシュアップ

特に今年度の研修の核となる「日本語教育の参照枠」を扱ったセッション7について、昨年度の内容から発展し、ループリックを作成する具体的な手法を取り入れた。受講者にとっては思考負荷が高く、自己評価の数値は他セッションと比べて下回っていたものの、満足度においては高い数値が出ているため、質の高い研修内容であったと評価できる。

③受講者数について

今年度は募集定員を昨年度の90名から18名増加し、108名とした。会場ごとに定員を設け、結果、東京会場61名、大阪会場39名、福岡会場14名の合計114名の応募があり、全体として募集目標を達成した。一部受講資格に満たない方や辞退も含まれるため、最終的な研修参加者は99名となったが、多くの機関からの参加者を獲得することができたため、公益的な日本語教育人材の養成・研修という観点からも意義があったといえる。

■ 成果と課題

本年度の事業の課題と解決に向けて取り組むべき事項

①事前課題の取り組みスケジュールと内容について

今年度も募集開始時期が遅れたことで、事前課題に取り組む期間がタイトになってしまい、受講者にとって厳しいスケジュールとなった。受講者の負担を減らすため一部事前課題について見直しを行い、12単位時間から7単位時間へ事前課題のスリム化には成功したものの、来年度に向けては事前課題の提出期限を段階的に設定するなどして、受講者がじっくり事前課題に取り組めるような期間設定が望まれる。

②受講者の自己評価について

受講者アンケートの結果より、研修への参加姿勢や他者とのコミュニケーションに関する項目については、高い数値が出ている一方、チームの目的や役割分担を明確にしようとする意識、タスク進行中における自己の立ち位置や状況の把握、状況に応じた主体的なリーダーシップの発揮などに関する項目については、相対的に数値が低い傾向が見られた。今後は、研修内において自己内省の時間をより意識的に確保することや、活動後の振り返りを段階的に深める構成とするなど、研修設計上の工夫を通じて、受講者が自身の行動や役割を客観的に捉え直す機会を増やし、自己分析・考察を促す取り組みを検討していく必要がある。

■ 成果と課題

2025年度 文部科学省委託 主任教員研修プログラム 実施委員自己評価結果

「A：達成されている」「B：一部達成されているが不足が多い」「C：達成されていない」

実施について	評価
1. 研修実施についての広報活動を適切に行った。	A
・時期, 方法, 広報の対象が適切だった。	A
・受講対象者を明確に示すことができた。	A
2. 受講者数は想定どおりだった。	A
・目標とする受講者数に到達できた。(108名募集 101名受講決定通知)	A
・維持会員だけでなく, 新規機関, 非維持会員からの参加があった。	A
3. 研修形態は適切であった。	A
4. 研修担当者への効果的なオリエンテーションを実施した。	A
5. 受講者への情報提供が支障なく行われた。	A
・受講に係る情報の通知	A
・事前課題	A
6. 受講者の自己評価が把握できた。	A
7. 研修課題の設定と評価は適切であった。	A
・評価項目, 評価基準, 評価者	A
8. 修了判定の方法及び基準は妥当であった。	A
9. 目指す結果が受講者の自己評価及び修了判定により確認できた。	A
10. 研修の普及・拡大に必要な人材の育成が適切な形で行われた。	A

【研修形態について】

・昨年度同様、対面集合研修を含む研修を全国3会場(東京、大阪、福岡)にて実施した。各会場で集合研修を実施したことにより、受講者同士の交流の機会が増え、ネットワーキングが活性化した。

【研修課題の設定と評価について】

・昨年度に引き続き、実施委員会内部に各評価基準について修正や取りまとめを行う分科会を設け、評価基準の見直しを行ったことで、より精度の高い評価を実現することができた。また、LMSを活用した評価を行うことにより委員の負担軽減も実現できた。

【研修の普及・拡大について】

・昨年度の候補者研修修了者1名が今年度新たな実施委員として運営に加わった。毎年主任教員研修を実施できる人材を輩出していることは、次年度以降の研修実施委員の確保に大きく役立つものであり、非常に有意義である。

■ 成果と課題

外部評価委員 評価まとめ

<評価結果>

当委員会は、研修実施委員会から提出された自己評価書およびその関連資料と、評価委員による研修視察に基づき、標記事業の実施状況について検討した。

実施した研修プログラムは現職主任教員及び主任予定者に対する研修として、また研修担当講師育成プログラムは研修事業普及に必要な人材の育成研修として適切であると判断した。

99名参加者全員が修了したことは実施委員の努力の積み重ねである。

<今後の課題>

今後受講者が増えた場合、実施委員の陣容と体制、交代などに対処する方法を検討していかなければならない。

特に認定日本語教育機関、登録日本語教員の増加が見込まれる中、実施委員が無理なく仕事を進め、また充実した対面研修の機会を設けるなどかなり根本的な見直しも求められる。